

2019年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績



HIV感染者・AIDS患者の発生動向

- ・令和元年、東京都におけるHIV感染者とAIDS患者をあわせた新規報告数は406件（平成30年422件）であり、HIV感染者、AIDS患者の新規報告数はそれぞれ334件と72件であった。
- ・全国の報告数に占める東京都の割合は、HIV感染者が約37%、AIDS患者が約22%であった。
- ・国籍別及び性別では、HIV感染者とAIDS患者をあわせた新規報告数は、日本国籍男性が335件（82%）と最も多かった。外国籍男性は、前年より9件減少し53件（13%）であった。
- ・推定感染経路別では、HIV感染者の約90%、AIDS患者の約80%が性的接触であり、いずれにおいても同性間性的接触の占める割合が最も大きい。
- ・年齢階級別では、HIV感染者報告数は20歳代（37%）と30歳代（31%）が多く、AIDS患者報告数は40歳以上が約67%を占めた。
- ・推定感染地別では、HIV感染者とAIDS患者をあわせた新規報告数は、国内感染が347件（85%）であった。
- ・AIDS患者報告数のうち、ニューモシスティス肺炎の発症を契機に診断されたAIDS患者は43件（45%）と多かった。



相談・検査・療養体制

- ・令和元年、エイズ電話相談件数は、昨年より2,039件（約9%）減少した。
- ・「東京都HIV/エイズ電話相談」の相談者は、性別では女性、年齢では20歳代が最も多く、次いで30歳代が多い。相談内容は、感染不安や感染経路に関するものが多い。
- ・令和元年のHIV検査件数は、特別区保健所、多摩・島しょ地域保健所、東京都南新宿検査・相談室、東京都多摩地域検査・相談室ともに前年より増加した。また、特別区保健所、多摩・島しょ地域保健所では、陽性件数、陽性率ともに前年より減少した。一方で、東京都南新宿検査・相談室では陽性、陽性件数、陽性率ともに前年より増加した。
- ・免疫機能障害による身体障害者手帳の交付数は年々増加し、令和元年は、免疫機能障害による身体障害者手帳交付数は前年より454件（5.2%）増加した。

本「AIDS News Letter No.175（資料編）」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、東京都に令和元年に法定報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。図表中では、平成をH、平成元年をH1、令和をR、令和元年をR1、東京都南新宿検査・相談室を南新宿、東京都多摩地域検査・相談室を「多摩地域」と記載した。平成19年4月より八王子保健所は八王子市保健所、平成23年4月より町田保健所は町田市保健所となったが、経年比較をするため「多摩・島しょ地域保健所」に含めて計上している。また、特別区保健所、八王子市保健所及び町田市保健所を含む多摩・島しょ地域保健所を合わせて、「都内保健所」と表現した。東京都多摩地域検査・相談室については、平成25年度までは多摩・島しょ地域保健所に合算、平成26年度からは別掲とした。また、「東京都エイズ電話相談」は、平成25年4月から「東京都HIV/エイズ電話相談」に名称変更している。

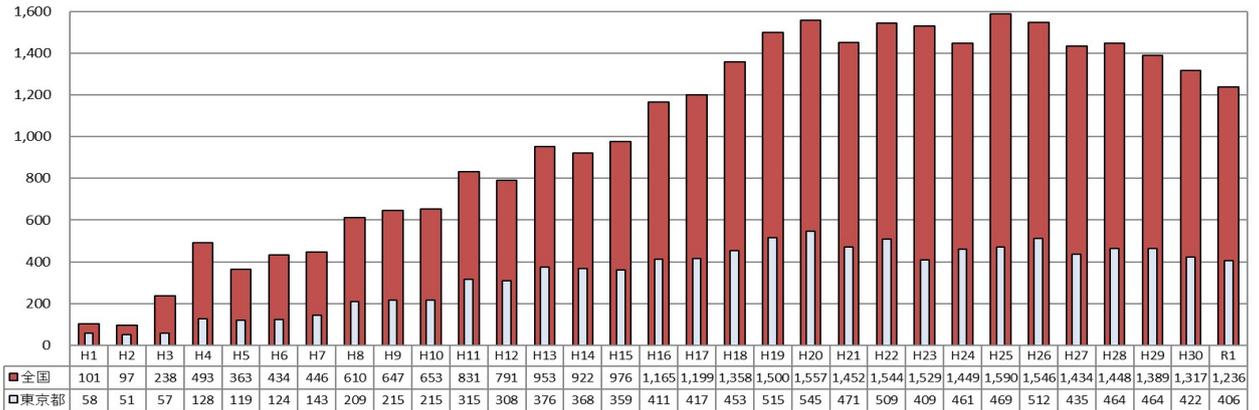
目 次

I HIV感染者及びAIDS患者の発生動向			
P.3	1-1	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都と全国の報告数年次推移
	1-2	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染経路別報告数年次推移
	1-3	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染地別報告数年次推移
P.4	1-4	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の国籍別・性別報告数年次推移
	1-5	HIV感染者とAIDS患者	東京都のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
	1-6	HIV感染者とAIDS患者	全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
P.5	1-7	HIV感染者とAIDS患者	東京都以外のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
	1-8	HIV感染者	全国に占める東京都のHIV感染者報告数割合年次推移
	1-9	HIV感染者	東京都のHIV感染者の国籍別・性別報告数年次推移
P.6	1-10	HIV感染者	東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-11	HIV感染者	東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-12	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別・推定感染経路別報告割合（令和元年）
P.7	1-13	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別報告数年次推移
	1-14	AIDS患者	全国に占める東京都のAIDS患者報告数割合年次推移
	1-15	AIDS患者	東京都のAIDS患者の国籍別・性別報告数年次推移
P.8	1-16	AIDS患者	東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-17	AIDS患者	東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-18	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別・推定感染経路別報告割合（令和元年）
P.9	1-19	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別報告数年次推移
	1-20	AIDS患者	東京都のAIDS指標疾患（令和元年）
II 相談・検査・療養体制			
P.10	2-1	HIV/エイズ電話相談	東京都のHIV/エイズ電話相談件数年次推移
	2-2	HIV/エイズ電話相談	「東京都HIV/エイズ電話相談」における相談者の性別（令和元年）
	2-3	HIV/エイズ電話相談	「東京都HIV/エイズ電話相談」における相談者の年齢（令和元年）
P.11	2-4	HIV/エイズ電話相談	「東京都HIV/エイズ電話相談」の相談内容（令和元年）
	2-5	HIV検査	東京都のHIV検査件数年次推移
P.12	2-6	HIV検査	東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移
	2-7	医療機関	東京都のHIV感染者報告の届出別割合（平成25年～令和元年）
	2-8	身体障害者手帳	東京都のHIV感染者・AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳（免疫機能障害）交付数年次推移
P.13	2-9	性感染症検査	東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数（令和元年）
III 世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数			
P.14	世界のHIV/AIDS流行状況2019年末現在（UNAIDS/WHO）		
	日本のHIV感染者、AIDS患者累計数2019年末現在（厚生労働省）		

1. HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

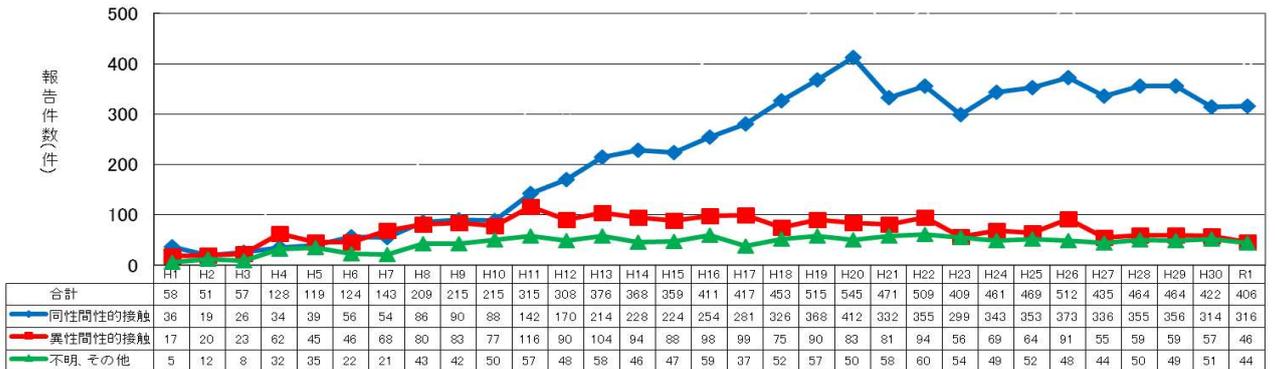
[HIV感染者とAIDS患者の総計 (HIV+AIDS)]

1-1 東京都と全国の報告数年次推移



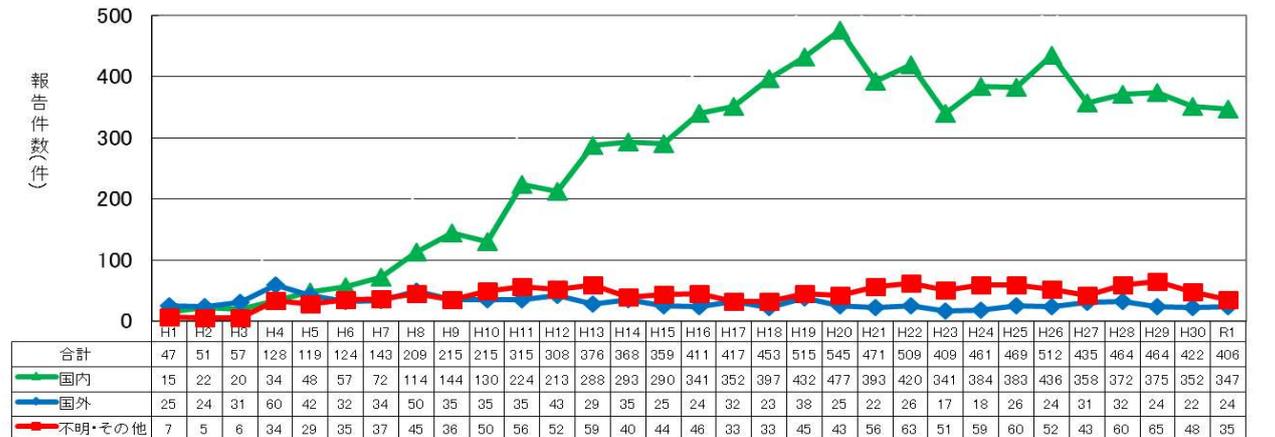
HIV感染者とAIDS患者をあわせた新規報告数は、東京都では前年より16件減少し406件、全国では前年より81件減少し1,236件であった。

1-2 東京都の推定感染経路別報告数年次推移



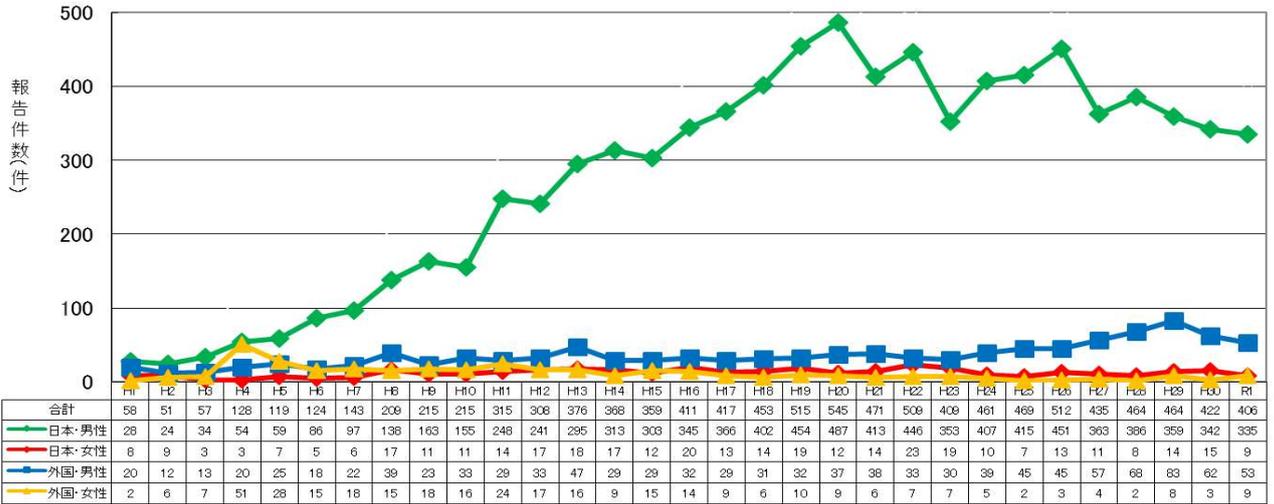
推定感染経路別では、同性間性的接触(両性間性的接触含む)による報告数は、平成20年の412件をピークに、その後は300~350件程度で推移している。異性間性的接触は、平成23年以降(平成26年の91件を除いて)は、50件~60件程度で推移していたが、令和元年は50件を下回った。

1-3 東京都の推定感染地別報告数年次推移



推定感染地別では、国内感染は前年より5件減少し347件(約85%)であり、国外感染は平成20年以降、20件~30件程度で推移している。

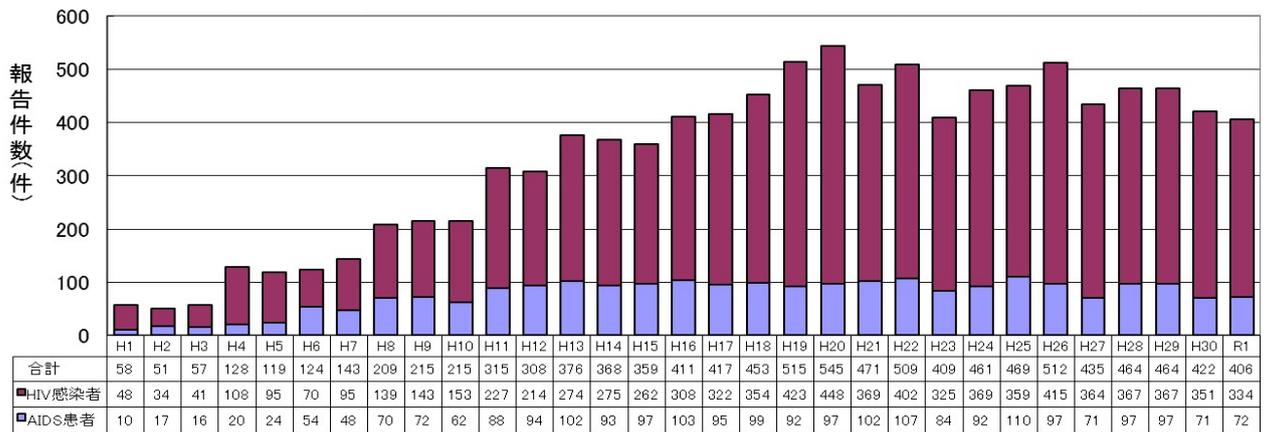
1-4
東京都の国籍別・性別報告数年次推移



国籍別および性別では、日本国籍男性の報告数は前年より7件減少し335件であった。外国国籍男性の報告数は前年より9件減少し53件であった。日本国籍女性及び外国籍女性の報告数に大きな変化はなく推移している。

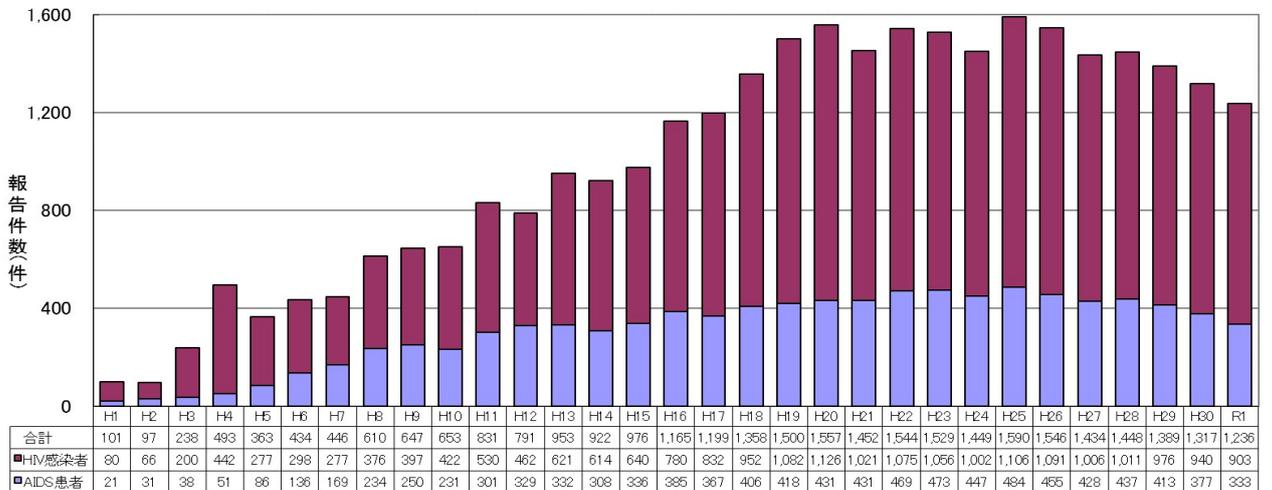
[HIV感染者とAIDS患者 (HIV/AIDS)]

1-5
東京都のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移



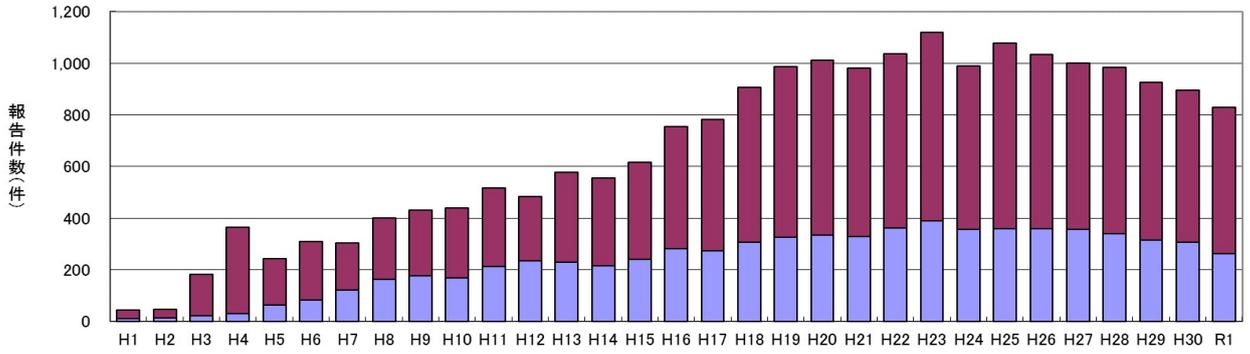
東京都におけるHIV感染者報告数は前年より17件減少し334件であり、AIDS患者報告数は前年より1件増加し72件であった。

1-6
全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移



全国におけるHIV感染者報告数は、前年より37件減少し903件であった。AIDS患者報告数は前年より44件減少し333件であった。HIV感染者とAIDS患者をあわせた報告数の約30%がAIDS発症によりHIV感染が判明している。

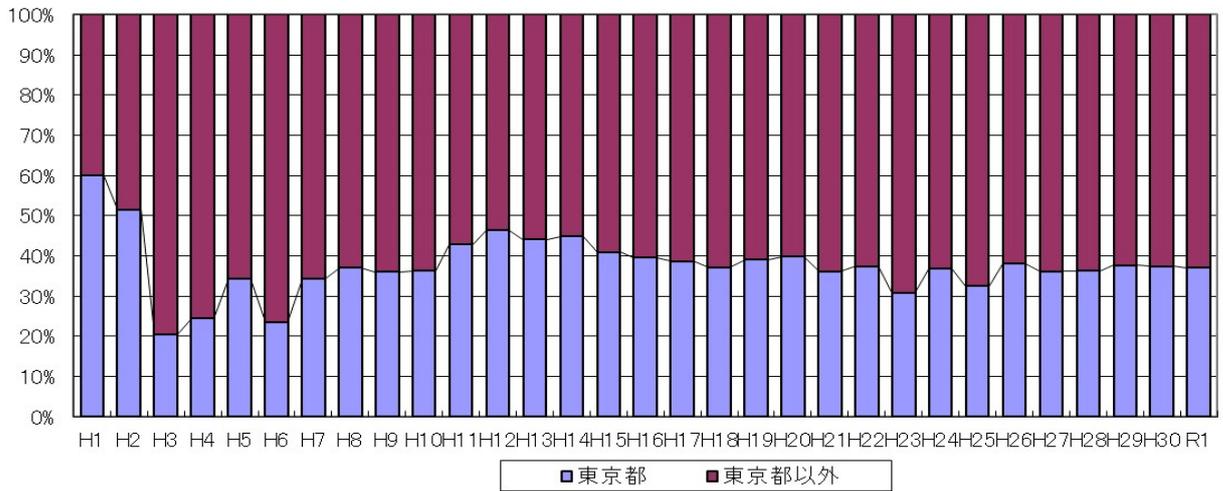
1-7
東京都以外の
HIV感染者とAIDS患者
報告数年次推移



東京都以外のHIV感染者報告数及びAIDS患者報告件数は、前年より減少した。

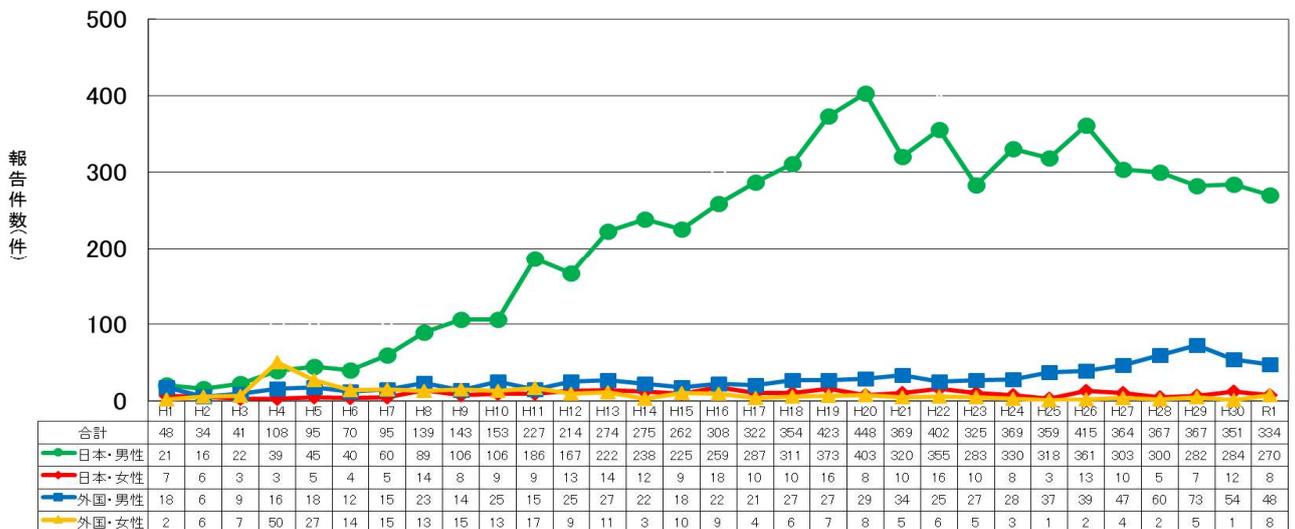
[HIV感染者 (HIV)]

1-8
全国に占める
東京都の
HIV感染者
報告数割合
年次推移



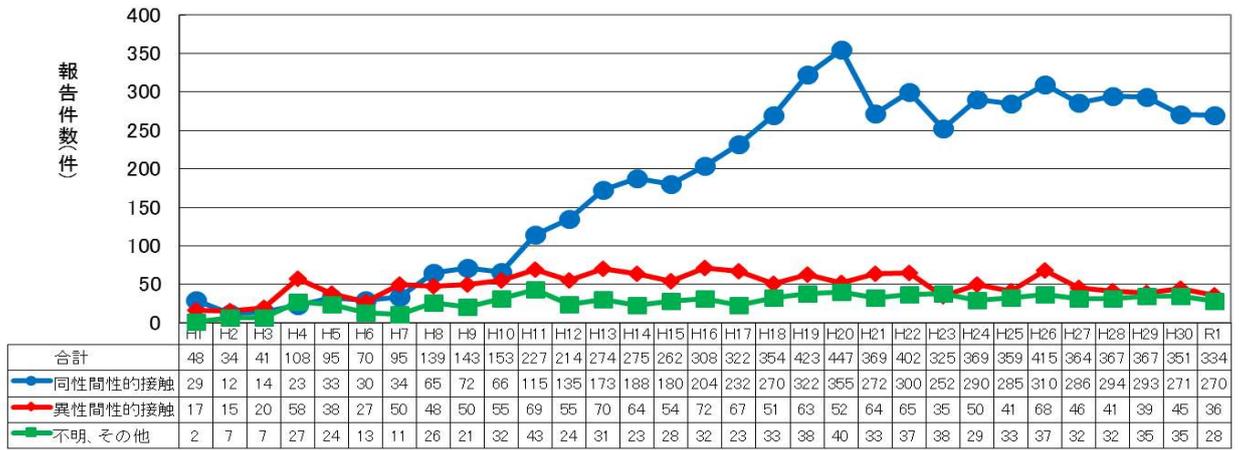
東京都のHIV感染者報告数は、平成27年以降、全国の報告数の約35%で推移している。

1-9
東京都の
HIV感染者
の国籍別・
性別報告数
年次推移



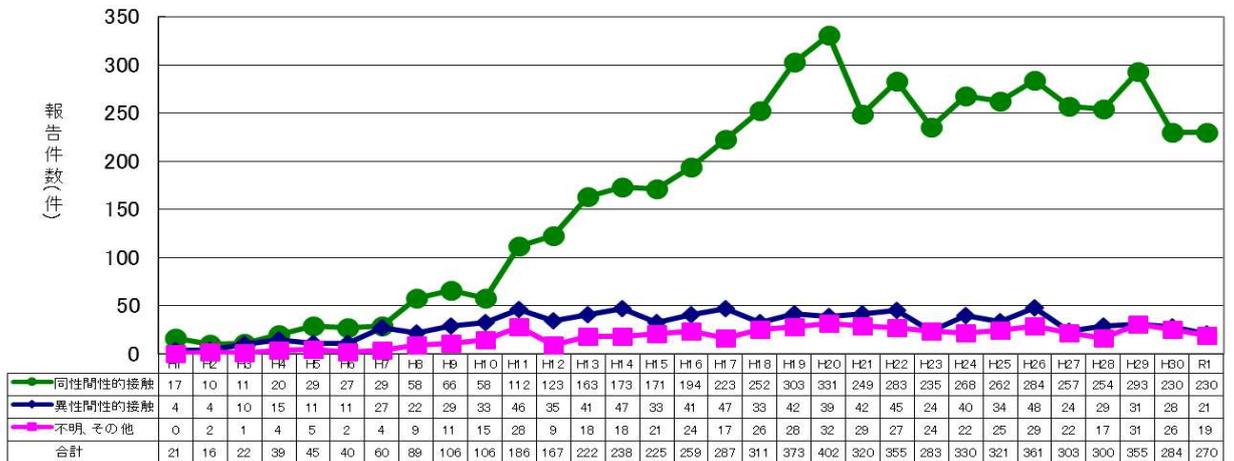
国籍別および性別では、日本人国籍男性の報告数は前年より14件減少し270件(約80%)であった。外国籍男性の報告数は、前年より6件減少し48件(約15%)であった。

1-10
東京都の
HIV感染者
の推定感染
経路別報告
数年次推移



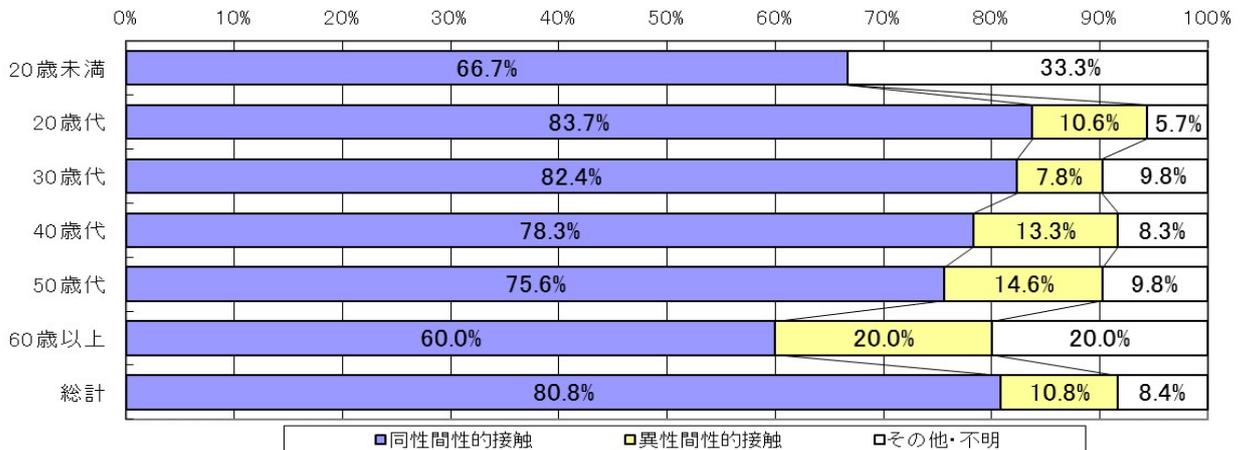
東京都のHIV感染者の報告のうち、同性間性的接触(両性間性的接触含む)の報告数は平成20年の355件をピークに減少傾向であり、令和元年は270件であった。

1-11
東京都の日本国籍男性
における
HIV感染者
の推定感染
経路別報告
数年次推移



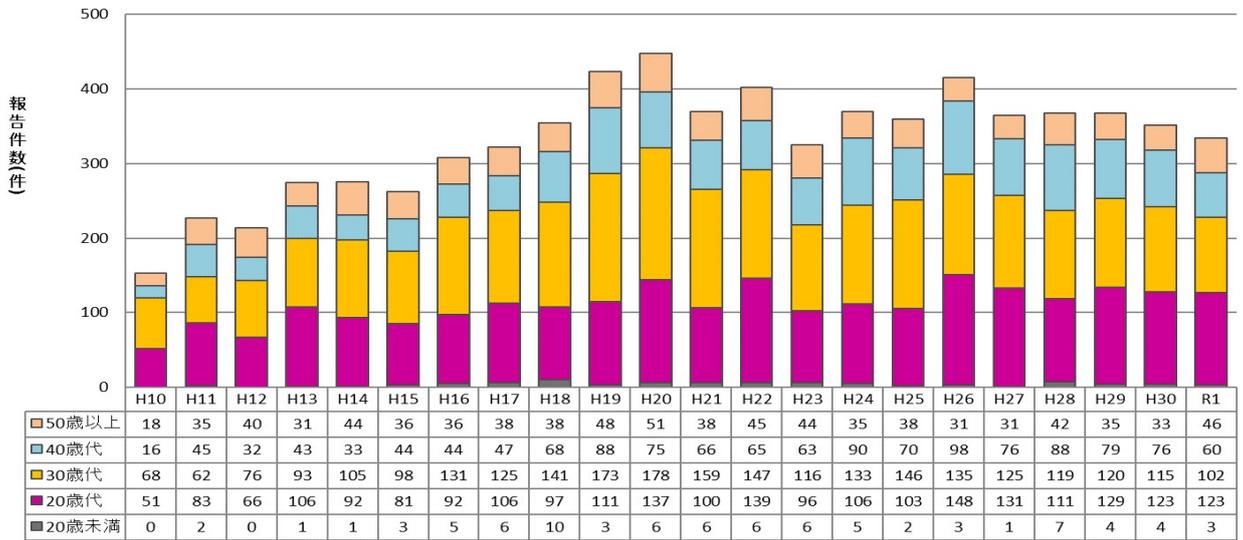
日本国籍男性におけるHIV感染者のうち感染経路別では、同性間性的接触(両性間性的接触含む)の報告数は、平成20年の331件をピークに以降200件台で推移している。一方、異性間性的接触の報告数は平成7年以降は20件~40件台で推移している。

1-12
東京都のHIV
感染者の年
齢別・推定
感染経路別
報告割合
(令和元年)



東京都のHIV感染者のうち、感染経路別では同性間性的接触(両性間性的接触含む)の割合は、20歳未満は約70%、20歳~50歳代は約80%、60歳以上は約60%を占めている。

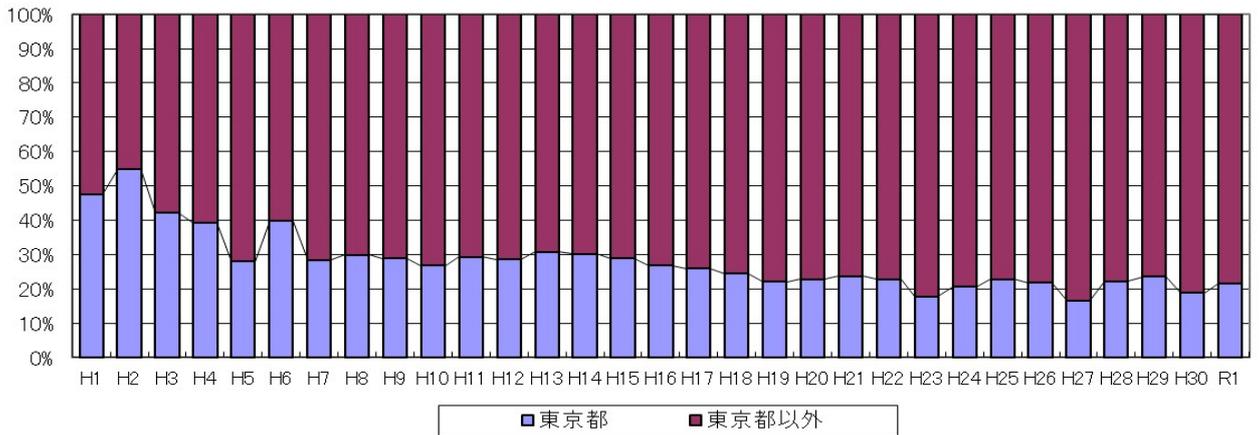
1-13
東京都の
HIV感染者
の年齢別報
告数年次推
移



東京都のHIV感染者の年齢階級別報告数において、20歳代、30歳代の報告数が多い。令和元年は前年に比べ、20歳未満、30歳代、40歳代で報告数が減少した。

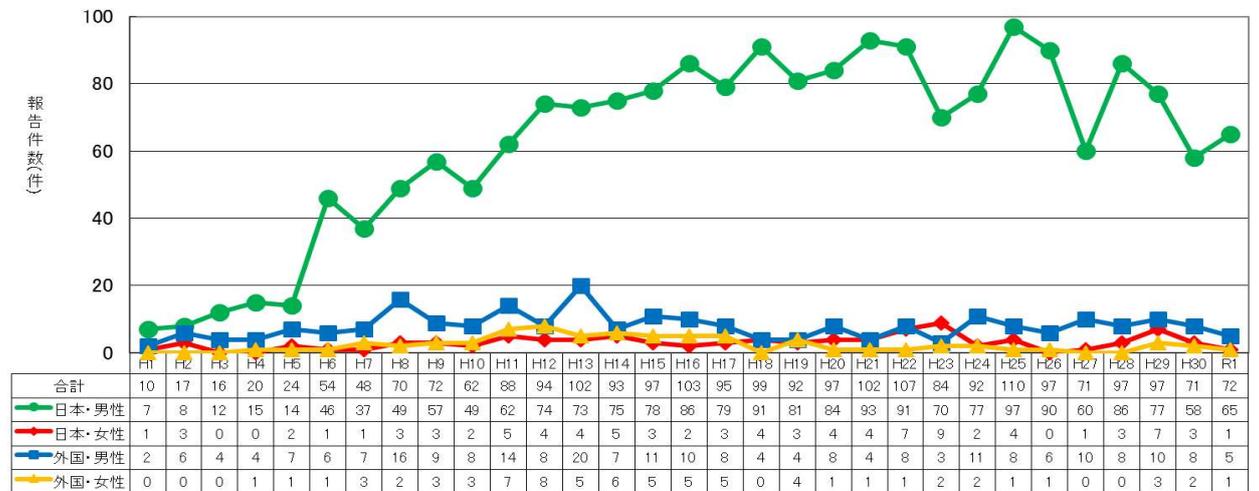
[AIDS患者 (AIDS)]

1-14
全国に占め
る東京都の
AIDS患者報
告数割合年
次推移



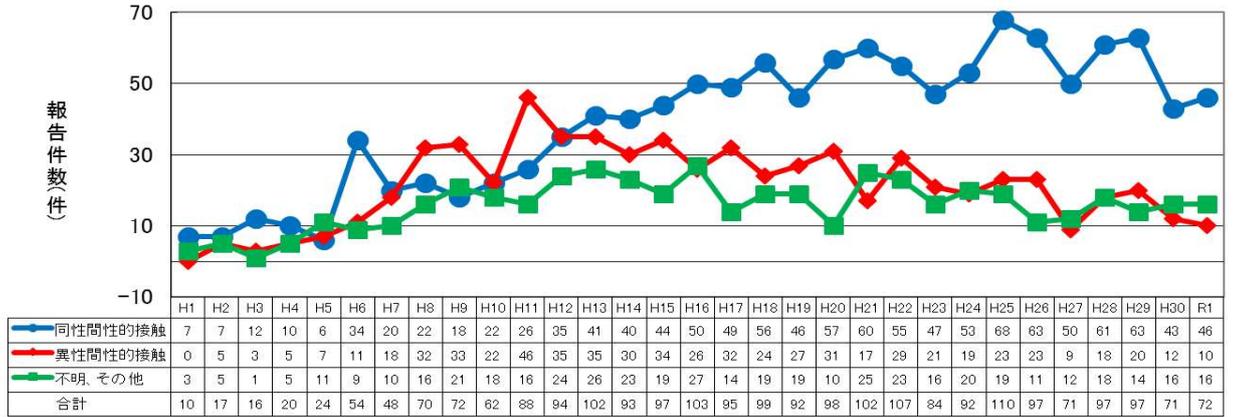
東京都のAIDS患者報告数は、近年、全国の報告数の約20%で推移している。

1-15
東京都の
AIDS患者の
国籍別・性
別報告数年
次推移



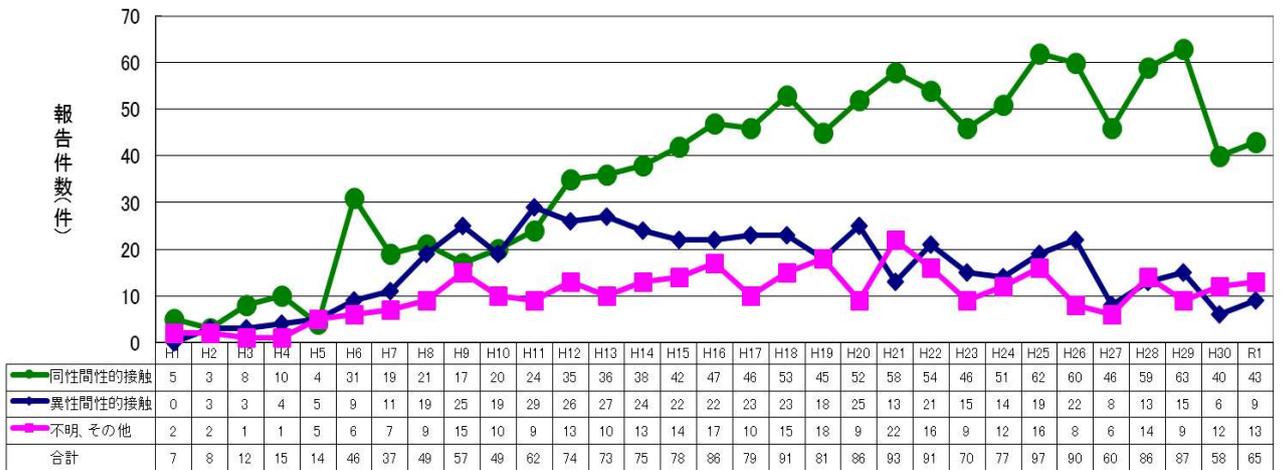
東京都のAIDS患者の報告のうち、国籍および性別では日本国籍男性は前年より7件増加し65件、日本国籍女性の報告数は前年より2件減少し1件であった。外国籍男性は前年より3件減少し5件、外国籍女性は前年より1件減少し1件であった。

1-16
東京都の
AIDS患者の
推定感染経
路別報告数
年次推移



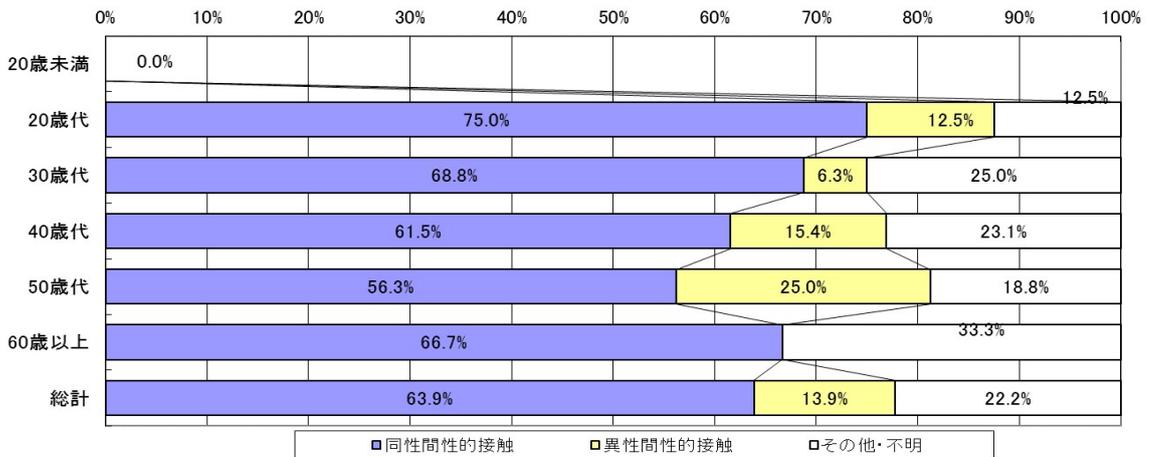
東京都のAIDS患者の報告のうち、推定感染経路別では同性間性的接触(両性間性的接触含む)の報告数は前年より3件増加し46件であった。異性間性的接触の報告数は前年より2件減少し10件であった。

1-17
東京都の日本国籍男性
における
AIDS患者の
推定感染経
路別報告数
年次推移



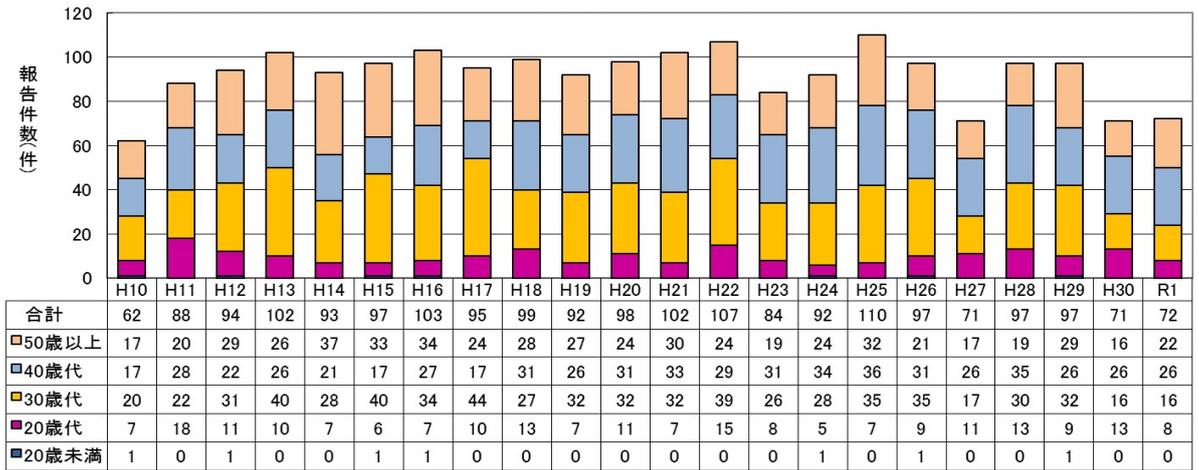
東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の報告のうち推定感染経路別では、同性間性的接触(両性間性的接触含む)の報告数は前年より3件増加し43件であった。

1-18
東京都の
AIDS患者の
年齢別・推
定感染経路
別報告割合
(令和元年)



東京都のAIDS患者の報告のうち、推定感染経路別では性的接触と報告があった全ての年代において、異性間性的接触よりも同性間性的接触(両性間性的接触含む)の割合が多かった。

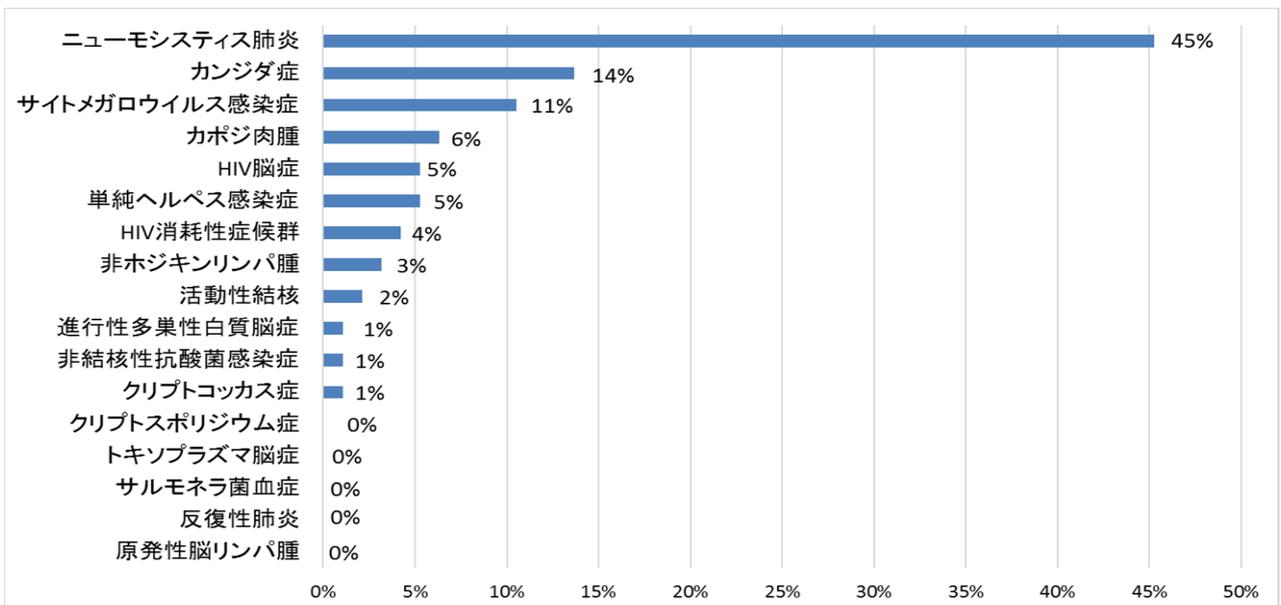
1-19
東京都の
AIDS患者の
年齢別報告
数年次推移



東京都のAIDS患者の報告のうち、年齢階級別では令和元年は40歳代(約35%)、50歳以上(約30%)、30歳代(約20%)、20歳代(約10%)、20歳未満の順に報告数が多かった。都のAIDS患者の報告のうち、推定感染経路別では性的接触と報告があった全ての年代において、異性間性的接触よりも同性間性的接触(両性間性的接触含む)の割合が多かった。

1-20
東京都の
AIDS指標疾
患
(令和元年)

* 複数回答



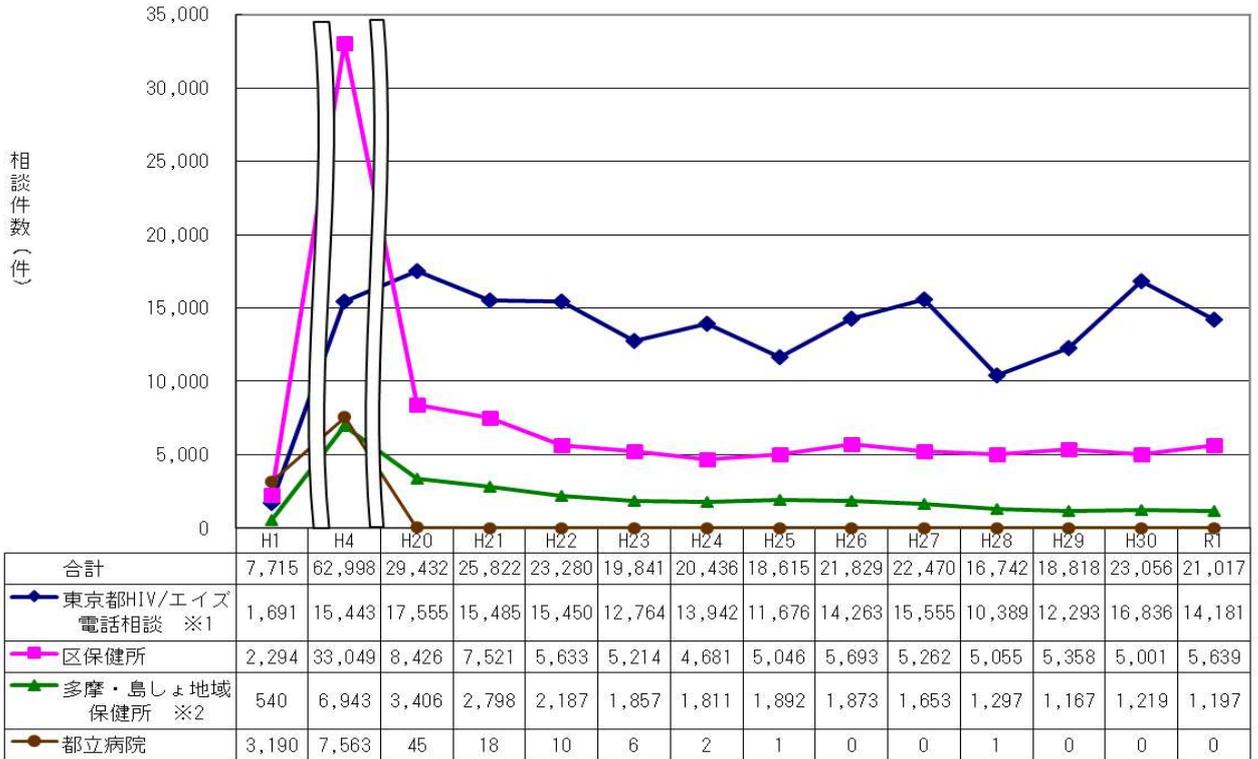
令和元年にAIDSと報告された者の45%がニューモシスティス肺炎によりAIDSと診断されている。次いでカンジダ症(14%)、サイトメガロウイルス感染症(11%)、カポジ肉腫(6%)、HIV消耗性症候群(5%)の順で診断されている。

2. 相談・検査・療養体制

[HIV/エイズ電話相談]

2-1

東京都HIV/
エイズ電話
相談件数年
次推移



※1 平成10年以前の「東京都エイズ電話相談」件数には、エイズ対策係で実施していた電話相談の件数を含む。

※2 八王子市(平成19年4月より)、町田市(平成23年4月より)は、保健所政令市となり各市設置の保健所になっているが、経年比較のため、多摩・島しょ地域保健所を含めて計上している。

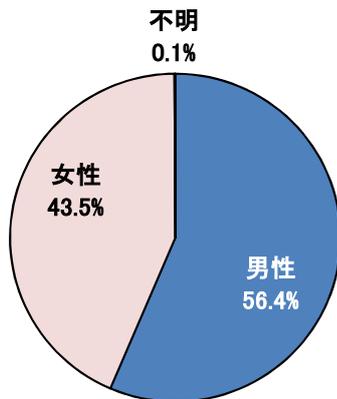
エイズ電話相談は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後減少し、その後は横ばいの状況が続いていた。平成20年以降にやや減少した後、平成27年までは2万件前後で横ばいの状況が続いていた。

平成28年に過去最低の件数に落ち込んだが、再び増加傾向となっていた。令和元年度は前年と比較して8.8%減少し、21,017件であった。

2-2

「東京都
HIV/エイズ
電話相談」
における相
談者の性別
(令和元年)

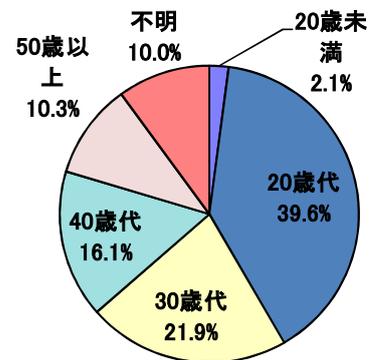
<2-2>



2-3

「東京都
HIV/エイズ
電話相談」
における相
談者の年齢
(令和元年)

<2-3>

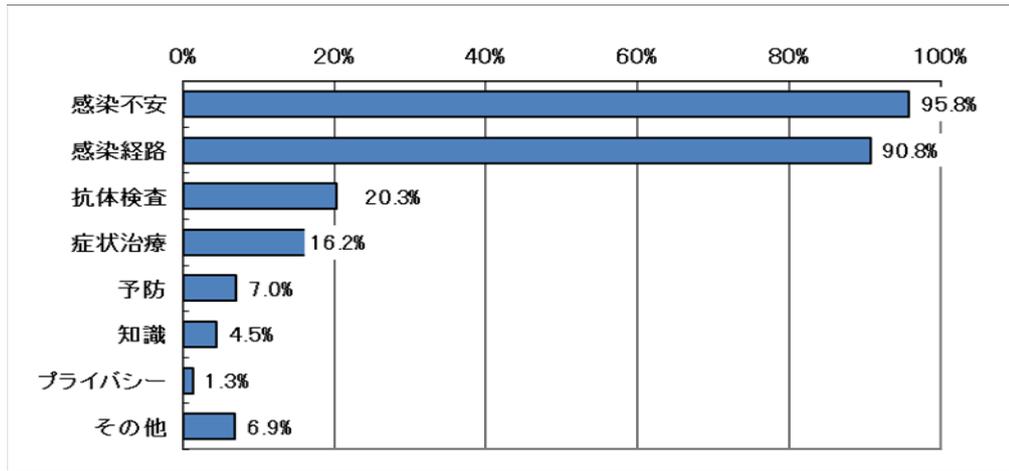


性別割合では、男性56.4%、女性約43.5%。昨年と比べ男性の割合が増えた。

年齢別に見ると、20歳代が多く、30歳代以下の相談者が60%以上を占めている。昨年と比べ、40歳代の割合が増加した。

2-4

「東京都 HIV/エイズ 電話相談」の相談内容(令和元年)
*複数回答

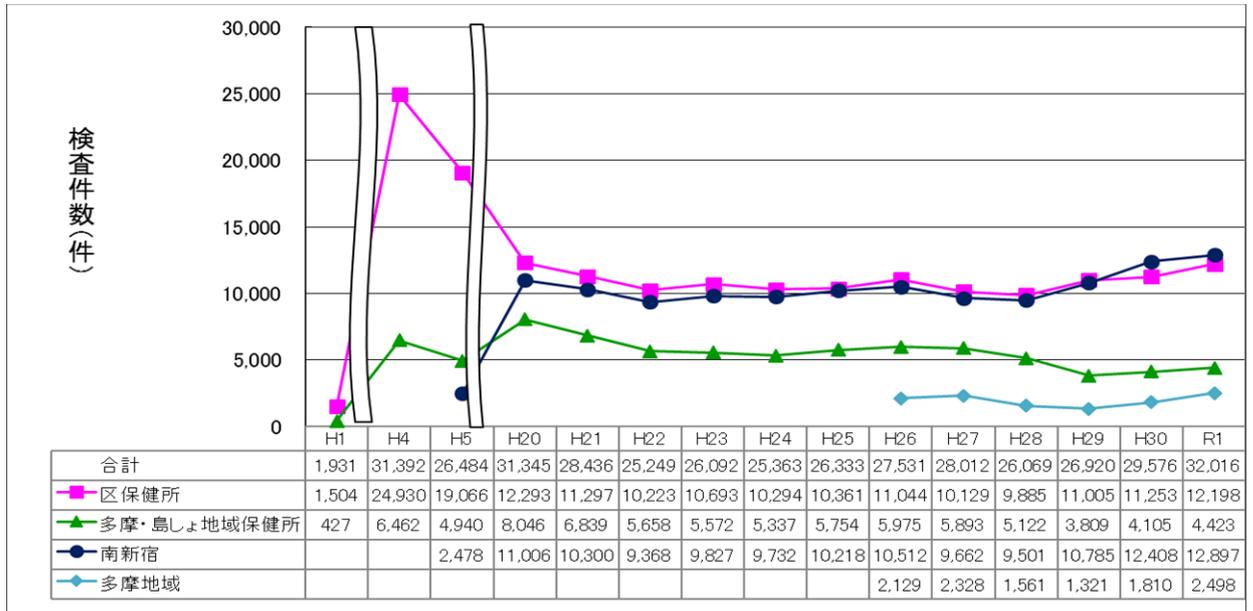


東京都エイズ電話相談の相談内容に関し、感染不安と感染経路が飛びぬけて多い状況はここ数年変わっていない。一方、抗体検査に関する相談が増加している。
なお、1回の電話で相談内容が多岐にわたることもあるため、複数回答で計上している。また、分類項目から「ノイローゼ」「STI」を外している。

[HIV検査]

2-5

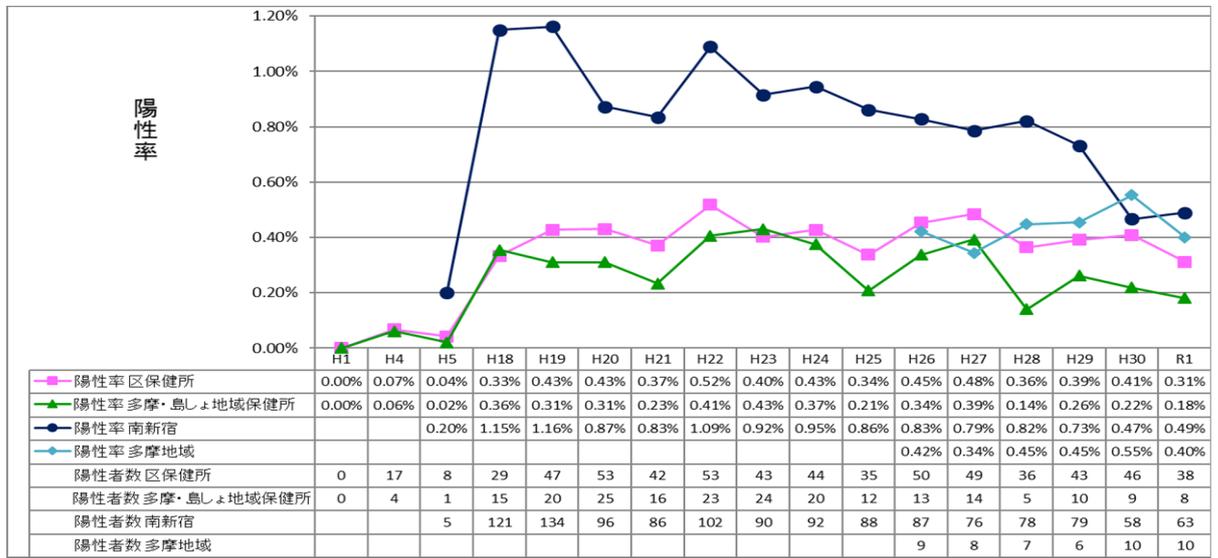
東京都の HIV検査 件数年次推移



※平成25年度までは多摩地域検査・相談室の実績は多摩・島しょ地域保健所に合算、平成26年度から別掲とした

都内保健所(区保健所、多摩・島しょ地域保健所)の検査件数は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後に減少し、その後横ばいの状況が続いていた。平成15年以降は再び増加していたが平成20年をピークに減少に転じ、平成22年からは約16,000件程度で横ばいで推移していた。令和元年は前年と比較し1,263件増加している。
区保健所では、港区での委託検査開始(平成20年)などの動きもあり増加した後、平成21年以降10,000件台で推移していた。平成28年に10,000件以下となったが、令和元年は前年と比べ増加し、12,000件を上回った。
多摩・島しょ地域保健所では、多摩府中保健所での検査開始(平成19年)や、多摩地域検査・相談室の定着により増加していたものの平成22年より減少に転じ、平成29年には3,000件台に減少したが、令和元年は前年より318件増加した。
南新宿検査・相談室の検査件数は、土・日曜日の検査を開始した平成15年より増加し、平成16年からは11,000件前後で推移していた。その後は、平成19年をピークに10,000件前後で推移している。平成27年に10,000件を下回ったが、平成29年は増加し、再び10,000件を超えた。令和元年はさらに増加し12,000件を超えた。
多摩地域検査・相談室の検査件数はH28年、H29年と減少したが、H30年に引き続き令和元年は増加した。
令和元年の検査件数合計では、前年比約8%の増加であった。

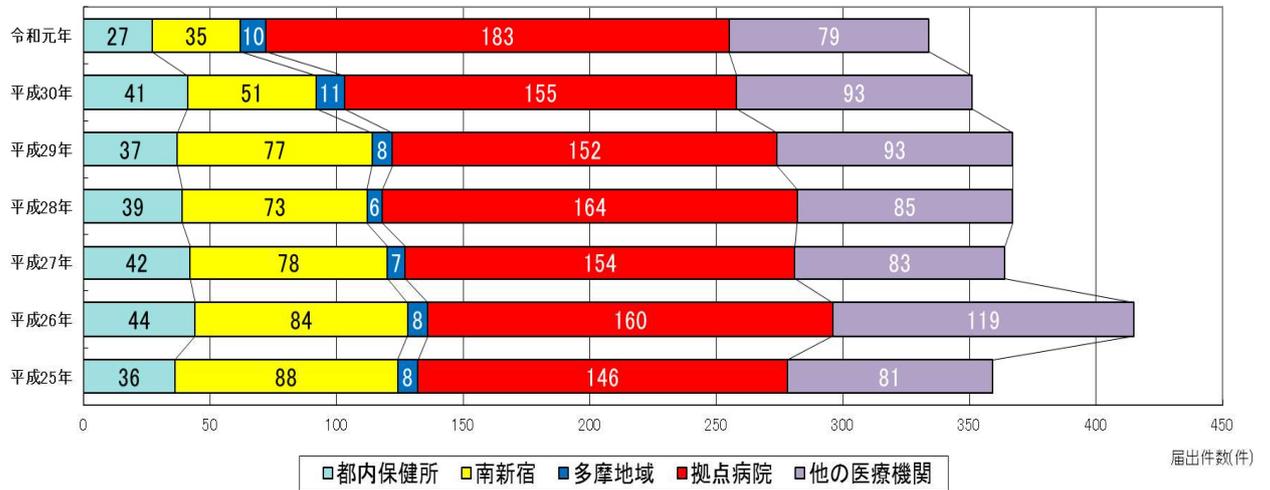
2-6
東京都の
HIV検査に
おける陽性
件数・陽性
率年次推移



令和元年は、区保健所、多摩・島しょ地域保健所では陽性件数は前年より減少し、陽性率も低下した。
南新宿検査・相談室では、陽性件数は前年と比べ増加し、陽性率も高くなった。
多摩地域検査・相談室では、前年と陽性者数は同数であったが、陽性率は低下した。

[医療機関]

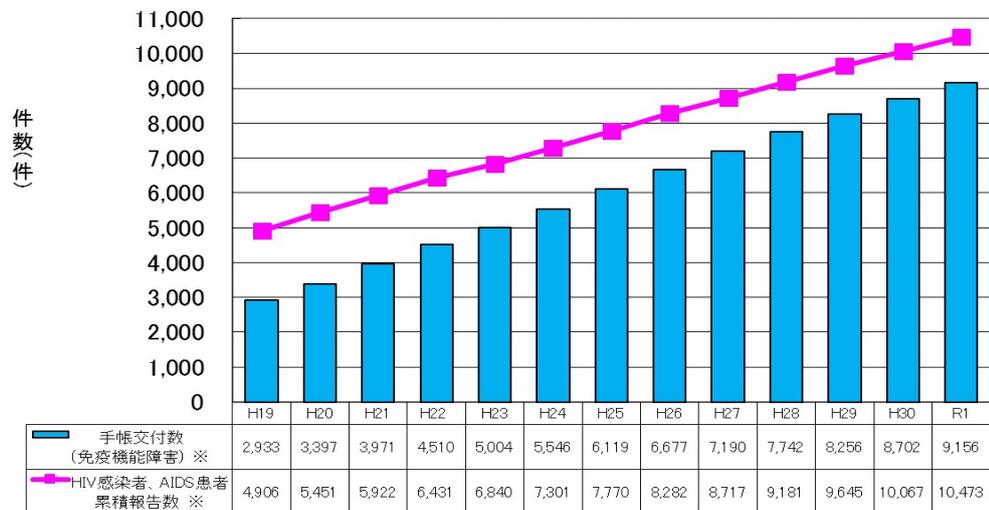
2-7
東京都の
HIV感染者
報告の届出
別割合
(平成25年
～令和元
年)



南新宿検査・相談室からの届出件数は減少傾向にある。

[身体障害者手帳]

2-8
東京都の
HIV感染
者、AIDS患
者累積報告
数と身体障
害者手帳
(免疫機能
障害)交付
数年次推移



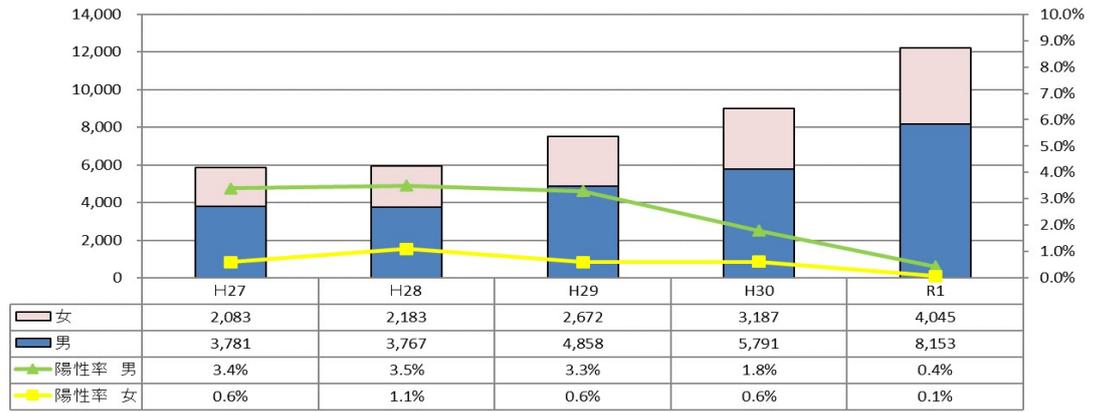
※各年の12月末時点での数値

HIV感染者、AIDS患者の累積報告数の増加とともに、身体障害者手帳(免疫機能障害)の交付数も年々増加している。令和元年の免疫機能障害による身体障害者手帳交付台帳登録は前年に比べ454件増加した。

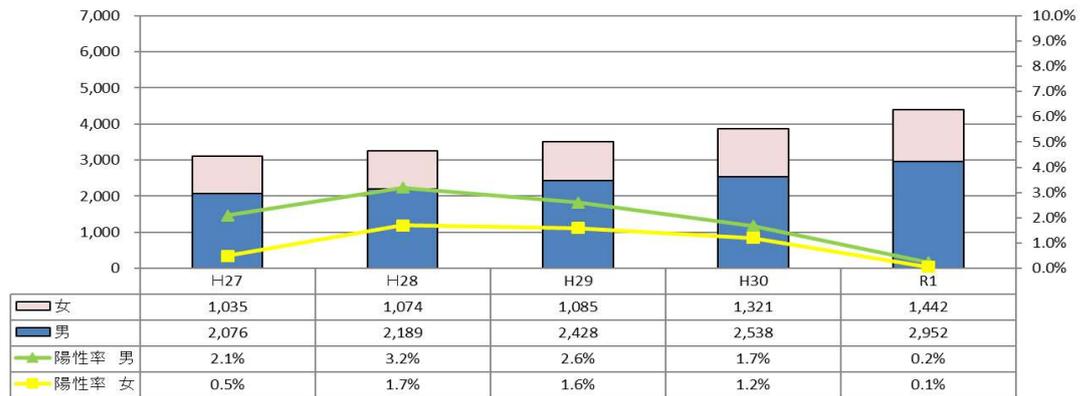
[性感染症検査]

2-9
東京都の梅毒検査における検査件数と陽性率の年次推移

[区保健所]



[多摩・島しょ地域保健所]



[南新宿検査・相談室]



[多摩地域検査・相談室]



梅毒検査:平成30年4月より多摩地域検査・相談室ではHIV即日検査実施時に梅毒検査を開始した。
区保健所、多摩地域保健所、南新宿検査・相談室、多摩地域検査・相談室において検査件数は前年より増加した。
陽性率は、区保健所、多摩地域保健所、南新宿検査・相談室、多摩地域検査・相談室において前年より低かった。

3. 世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数

○世界のHIV/AIDS流行状況 2019年末現在 (UNAIDS/WHO)

○日本のHIV感染者、AIDS患者累計数2019年末現在(厚生労働省)

HIV 感染者数(推計値)

3,800 万人(3,160 万-4,450 万人)

HIV感染者報告の累計数

21,739人

2019年における新規HIV 感染者数 (推計値)

170万人(120 万-220 万人)

AIDS患者報告の累計数

9,646人

2019年におけるAIDS による死亡者数 (推計値)

69 万人(50 万-97 万人)

実際の数値は推計値の右側 () 内に記載された数値の範囲内に存在する。
これらの数値は入手可能な最良のデータを基にして算出されている。

★東京都新宿東口検査・相談室 HIV通常検査・梅毒通常検査 (匿名・無料、電話又は携帯からの予約制)

ホームページ <https://www.tmsks.jp>

【予約検査】

予約受付番号 03-6273-8512

予約受付時間 月～金 (祝日を除く) : 午後3時30分から午後7時30分まで
土・日 (祝日を除く) : 午後1時から午後4時30分まで

※聴覚障害者の方のみ、ファクシミリでの予約申込みができます。

ファクシミリ 03-6273-8532 (予約受付時間は上記と同じ)

★東京都多摩地域検査・相談室 HIV即日検査・梅毒即日検査 (匿名・無料、予約制及び先着順)

【予約検査】

予約受付番号 080-2022-3667

予約受付時間 月～金 (祝日を除く) : 午前10時から午後4時まで

検査受付時間 土曜日 (祝日を除く) : 午前10時

【先着順検査】

検査受付時間 土曜日 (祝日を除く) : 午後1時から午後3時まで

問い合わせ先 090-2537-2906 (日・祝・年末年始除く午前9時30分から午後5時まで)

※先着順検査は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止している場合があります。

必ず事前にご確認ください。

★東京都HIV/エイズ電話相談 電話 03-3227-3335

(月～金 : 正午から午後9時まで、土・日・祝日 : 午後2時から午後5時まで)

※HIV/エイズに関する相談・検査 (匿名・無料) は各保健所へ (一部性感染症検査も同時に可)

【発行】東京都福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課エイズ対策担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号